

本書『入門 税務調査―小説でつかむ改正国税通則法の要点と検証』は、プロフェッションジャーナル (Profession Journal) で一年間 (公開日：二〇一二年一月八日～二〇一三年二月九日)、ネットでも有料配信した記事をベースとして出来上がったものである。

平成二三 (二〇一一) 年度の税制改正で国税通則法が見直され、税務調査について、多くの事項が法律で定められた。これらの内容については従前とあまり異なることはないのであるが、法律で詳細に規定されたがゆえに、税務署も納税者も試行錯誤を繰り返しながらこの法律に対処している。

本書は、改正国税通則法によって、税務署の内部においてどのような問題が生じるのかについて、小説風に記述したものである。主として法人課税部門の淵崎統括官 (五七歳)、田村上席調査官 (四二歳) そして山口調査官 (二七歳) の三名を登場させ、それぞれの立場から、改正国税通則法後の税務調査のあり方等について検討している。

ここで行われている会話などは、筆者が想定したもので、また登場している税務職員はもちろん、調査対象法人や社長、税理士等もすべて架空である。しかしながら、そこで議論・検討されている事柄は実際に現場において発生しているもので、これらについて私見を含めて、異なる意見を多面的に述べている。会話を中心として税務調査の議論が展開されているので、ある意味では、読者にとって

## 本書の主な登場人物

- 洲崎統括官（57歳）  
……河内税務署法人課税第三部門勤務
- 田村上席調査官（42歳）  
……河内税務署法人課税第三部門勤務
- 山口調査官（27歳）  
……河内税務署法人課税第三部門勤務

## 税務署（法人課税部門）職制図



読みやすくなっているのではないかと自負している。また本書では、各Chapter<sup>チャプター</sup>に関連する資料をできるだけ多く添付している。改正国税通則法にもなつて国税庁等から新しい様式の資料が出されたため、これらの資料の活用も考慮し、関連するChapter<sup>チャプター</sup>）に配置している。

本書を読むことによつて、改正後の税務調査の具体的な変化等を知ることができれば、筆者の企図はほぼ叶えられたと言ってもよい。Chapter 1からChapter 21と三つのColumn<sup>コラム</sup>は、気軽に読んでもらえるように、三人の税務職員を主人公として小説風に記述している。しかも会話を中心に、その議論が展開されていることから、読者も会話の中に参加して、その議論の内容について考えることができるのではないかと思っている。

本書のタイトルは『入門 税務調査』としているが、その内容は入門というレベルにとどまるものではなく、新しい国税通則法の下での税務調査の問題点などを検証していることから、かなり深度のある内容になっている。

読者からの忌憚のないご意見を期待している。

なお、本書では扱っていないが、税務訴訟に関心がある読者は、

既刊の『新装版 入門 税務訴訟』（清文社）を読んでもらえれば、訴訟の一連の流れを理解できるであらう。

最後に、ネット上で掲載された記事を本書で使うことに快く承諾していただいた（株）プロフェツシヨンネットワーク（編集：坂田啓氏）に謝意を示すとともに、本書の企画・編集・校正等で大変お世話になった法律文化社・編集部の上田哲平氏には、ここに厚くお礼を申し上げます。

二〇一四年八月

八ツ尾 順一